

発行 小布施まちづくり委員会
 会長 元田和行
 事務局 小布施町役場企画政策課 定住交流係
 編集 小布施まちづくり委員会広報委員会

2008(平成20)年12月18日創刊
 ©小布施まちづくり委員会



E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp HP: http://www.town.obuse.nagano.jp/

まちづくり委員会 六斎市の出展

- 安全部会 【ステージ】 寸劇「心肺蘇生で生還」(協力 小布施分署)
 【体育館前テント】 防災資料「小布施町のハザードマップ」「避難所マップ」「公開AED 設置マップ」「まちづくり委員会の青色防犯パトロールマップ」等
- 共育部会 【体育館前テント】 昔のおもちゃ駒、けん玉等
- 定住促進部会 【体育館前テント】 定住について模造紙に意見添付

南箕輪村視察の報告

去る5月22日に上伊那郡南箕輪村へ視察に行きました。

南箕輪村は充実した子育て支援・児童福祉施策によって安定した人口増を続けており、2040年推計にて社会増・自然増が予想されている長野県唯一の自治体です。

子育てしやすいまちを作ること、何もなくても移住者がやってくる村の実

例から、これからの活動に資する多くの知見を得ることができました。



児童発達支援事業所「たけのこ園」にて療育の説明を受ける

編集長の声

先日、当会主催のビア・イベントで中島千波ご夫妻と対談する機会がありました。

200人近く入場者を迎えた中庭でビールを交わしつつ、現代の社会情勢論に熱が入り、絵を描き続けて苦闘50年史と、この場所(おぶせミュージアム)が近隣と溶け合い生き続けていくことに期待する話題で盛り上がりました。



町中にある貴重な文化施設であることが大変珍しく、これからも続いてほしいと思いました。

あなたも「まちづくり委員会」に参加しませんか!

様々な立場の人が自由に意見を交わし、住みよいまちづくりを考え実践する場として、平成20年にスタートしました。「安全」「環境」「福祉」「交流」「共育」「定住促進」の6つのテーマごとに部会を設け、月に1回くらいのペースで集まって活動しています。そんなまちづくり委員会にあなたも参加してみませんか。参加をご希望の方は、下記事務局へお申し込みください。

小布施まちづくり委員会事務局

Tel:026-214-9102
 Fax:026-247-3113
 E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp

編集後記

- ・暑い夏も終わり、爽やかな秋へと季節が移ります。運動会で食べるフルーツは、格別美味です! (花村/福祉)
- ・爽やかな秋(?)ですね。今年は台風が来ませんように。(横山/定住)
- ・毎年気候が大きく異なるため、農作物の出来はとも気になるところです。(工藤/環境)
- ・雨予報でした今年のビア・イベントも、皆さまの日頃の行いのおかげで無事に開催できました。ありがとうございました。(見海/交流)
- ・安全部会では、災害訓練カード作っています。公民館にひとつ、AEDが、備えられたらいいかな? (塩尻/安全)
- ・来年2月11日「今日からはじめるよい脳の育て方」講演会を行います。皆さん、今から予定をお願いします。(市村/共育)
- ・まちづくり委員会の見直しがかかっている。最近の流れとして「都会から地方へ」の動きが加速している。これに如何に取り組みか? これからの当委員会が正念場を迎えている。(内山/広報)
- ・ビア・イベントも無事終了、今秋も台風が無く町民運動会と六斎市ができますように祈ります。(安財/広報)
- ・防災も防犯も平穏な小布施町、古代からの贈り物が開花し始めている...ような気がしています。(吉田/広報)
- ・今年も賑わったビア・イベント。ただ呑むだけのイベントが、シンプルでいいですね。(奥田/広報)

第6回「小布施まちづくり語り座」報告

講師 市村次夫さん

株式会社小布施堂代表取締役、株式会社榊一市村酒造場代表取締役、一般財団法人北斎館理事長

6月21日(金) 公民館講堂

テーマ 歴史を尊ぶ町民主体のまちづくり

満を持しての登壇である。講師ご本人が平素から強い問題意識として抱かれています。「まちづくりとは何かあるべき」を明確に意思

表示してくださった一時間強の講演であった。その根底には、若くしてご尊父をなぐされたことがあったことを冒頭の紹介で知ること

ができた。「歴史を尊ぶ」ことの重要性を存分に学ぶことができ、講師の持つ豊富な知識と数々の貴重な体験を通して得ることが極めて多かった。



冒頭に紹介して下さった「ご尊父ご逝去」の報は、ご逝去が「12月30日」という、ほぼ年末とも言える一日であったためご本人は様々な苦勞を経験されている。一つの事例として紹介されたことには、故人が記された「古文書」をひもとかれた時、「読書百遍意おのずから通ず」を文字通り体験されている。

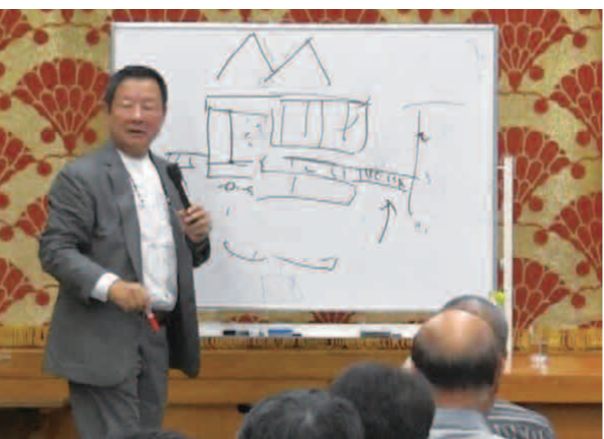
10年足らずの会社員勤めを終え、いよいよ本題の「まちづくり」に話題が転ずるや否や、留まるどころを知らないかのように、次から次へと豊富な話題が展開された。講師ご本人の内奥には、かつて訪れたイタ

リアでの体験と印象が色濃く反映されている、この印象を強くした。小布施町における町並み修景事業は、5社による共同事業であったが、町にも一人の当事者として参加してもらっている。大切なことは「センスを如何に持つか、であり、センスとは生まれついたものでは決してなく、知識の積み重ねによって育まれるものである」。

最後にこれからの日本は「楽しいかどうか」を判断基準の根底に置くべきである、この講師の持論が展

開された。議員のなり手不足一つを例にとっても、楽しくなければ誰もそこに近付こうとはしない。2〜3年前に403号線の電線地中化が決定したが、これも行政に委ねてしまうと画一的なものになってしまう。実施

50年後、100年後のあるべき姿を追い求めて現在まちづくりに取り組んでおり、これからもこの姿勢を維持しながら「まちづくり」に取り組んでゆく、と締めくくられた。(文責:内山英行)



前が極めて重要で、そここそ豊かな個性が発揮できる。そこを「市庭通り」と名付けた。これからは賑わいと楽しさを追求していく。さらに言えば、観光客が帰った後の夕暮れ前のひと時こそが地元住民が心底楽しめる瞬間である、この言は重い。

安全を考える部会

これまでの安全を考える部会

【1】2年間で唯一活動継続している青色防犯パトロールは現在も毎月実施しています。

【2】防災についての検討課題は発災後の避難生活について、机上訓練を想定しています。

【3】子どもから若者男女まで簡単に訓練体験ができる防災・減災かるたを作成しています。

【4】救命・救急活動に大



部会長 塩尻利一
て、最低でも27公会堂に一台の検討を開始しました。

定住促進を考える部会

未来のために今必要なこと

本年度の活動は5月の南箕輪村視察(別途掲載)に始まり、現在は「人口減少社会で幸せな未来を手にするために」をテーマにしたシンポジウム(11月23日)に向けて準備を進めています。

基調講演には『里山資本主義』や『経済成長なき幸福国家論』などの著書で知られる藻谷浩介氏をお招きします。

悪循環を引き起こすと予想されています。また「やりたい仕事がない」「障害等がある生きづらさ」「いい大学からいい企業に入ることが幸せと思っていたけれど、違うようだ」などといった、未来への「不安」にあふれています。

このシンポジウムを通じてこういった「不安」が「希望」に変わり、ひとりひとりの行動が好循環につながるよう検討を重ねていますので、皆さま予定しておいでください。

部会長 花村一二

自分史・未来日記のおぶせ版「YOLO」

福祉を考える部会

福祉部会では、今年初めに第2回自分史入門講座を開催し、住民参加の中で自分史の目的を理解していただき実際に体験もしていただきました。自分史については、今後も継続して講座を開催し周知していきたいと思えます。

並行して部会では未来日記(エンディングノート)についての検討を進めていますが、そもそも自分史と

として利用してはどの案も出ています。

今後部会では他市町村や県外の自治体や各団体が作成した自分史・未来日記なども参考にし、地域にあった自分史・未来日記の作成に向け検討を進めていきたいと思います。

最近の部会には町議会議員の関係される方にもご参加いただき、積極的な意見を頂戴しています。今後

も多くの方の意見や考えを盛り込み、検討を進めていきます。

環境を考える部会

小学校で共育部会との連携で食育教育

今年度も、生ごみリサイクル土作り(栗ガ丘小学校)や年生向け、菌ちゃんファンクラブ一般向け、めぐる元気野菜の普及活動を行っています。

家庭から出る生ごみと微生物を使った「菌ちゃん農法をさら



部会長 工藤陽輔

10時より、収穫祭野菜スープレのふるまい、めぐる野菜の販売も行い、少しずつではありますが浸透してきて

共育を考える部会

「子育てするなら小布施町」の実現のために

いると思えます。

小学4年生とは伝統野菜である小布施丸ナスを栽培しています。今年より新たに、他部会でも連携を行い、栽培した丸ナスでおみやげりや食育活動も進め、子どもたちへの食育教育も意識して進めています。嬉しい

事に昨年一緒に活動した5年生が自ら畑を開墾し、そして種を蒔いていました。その姿を見たときは感動し、子どもたちがとても頼もしかったです。部員間でもこの小学校の活動はずっと続けていこう、と話しています。子どもたちの

部会長 市村良江

記憶の片隅でも残るよう、今後もこの食農活動は力を入れて活動していきます。

まちづくり委員会もいろいろな部会がありますので、連携をすることで、活動の幅が広がります。委員会皆で、新たなものを創り出していきます。

交流を考える部会

第9回「ビア・アーベント」

今年9回目となる「ビア・アーベント」が8月2日(金)午後6時~8時まで開催された。昨年度から「地元住民の交流の場」と銘打っての2回目となる開催であったが、昨年と同様、子どもたちを含めて、2百数十名の参加者を集めて盛大に

部会長 見海勝利

奏に、2時間という限られた時間が瞬く間に過ぎ去った、というのが会場いっぱい埋め尽くされた当日の参加者の偽らざる印象であったことと思う。今後の活動予定では、10月「六斎市」への展示物出店に始まり、「年末の餅つき大会と藤岡牧夫画伯によるお絵かき教室」、そして、令和2年2月には恒例となった「多文化交流」と、今後の交流部会の予定が目白押しである。



共育を考える部会では今年度、脳科学と育ちの普及を重点的に行っています。脳の発達小冊子プロジェクト「脳科学パンフレット」を利用し、乳幼児期に脳をしっかり育てることの大切さを町民の皆さん

に広げる取り組みを継続しています。ブックスタート時にこのパンフレットをもとに脳の育ちの大切さを保護者の方に紹介したり、福原にあります「みらいく保育園」にお邪魔して長野市を中心に活動している「きつねのしっぽ」の皆さんとタッチケア等の大切さについて話していきます。

そして第

